

# ティーチング・ポートフォリオ

筑波学院大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科

秋廣 誠



筑波学院大学

TSUKUBA GAKUIN UNIVERSITY

## 1. 教育の責任

私の専門は視覚芸術分野であり、筑波学院大学経営情報学部ビジネスデザイン学科において、主としてメディアデザインに関する科目を担当している。現在（2020年度現在）の担当科目とその概略は以下のとおりである。

科目名	対象 学年	受講 人数※	授業 形態	必修選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
メディアデザイン基礎	1-4	50	講・演	選択	総合教養科目群 教養科目
デザイン基礎 A	2-4	70	講・演	講・演	専門基礎科目群 コ ース科目(メディアデ ザイン)
デザイン基礎 B	2-4	75	講・演	講・演	専門基礎科目群 コ ース科目(メディアデ ザイン)
イラストレーション1	2-4	40	講・演	選択	専門基礎科目群 コ ース科目(メディアデ ザイン)
イラストレーション2	2-4	40	講・演	選択	専門基礎科目群 コ ース科目(メディアデ ザイン)
情報デザイン1	2-4	50	講・演	選択	専門基礎科目群 コ ース科目(情報デザ イン)
情報デザイン2	2-4	40	講・演	選択	専門基礎科目群 コ ース科目(情報デザ イン)
ウェアラブル・コンピューティング	2-4	10	講・演	選択	専門基礎科目群 コ ース科目(情報デザ イン)
ビジュアライジング・プログラミング	2-4	10	講・演	選択	専門基礎科目群 コ ース科目(情報デザ イン)
メディアデザイン演習 E-1(バーチャルリアリティ)	3	20	講・演	選択	専門発展科目群 コ ース科目(メディアデ ザイン)
メディアデザイン演習 E-2(バーチャルリアリティ)	3	10	講・演	選択	専門発展科目群 コ ース科目(メディアデ ザイン)
卒業研究	4	3	講・演	選択	卒業研究

## 2. 教育の理念

私は美術大学の学生時代から作品発表を開始し、卒業後は美術大学等での教育にも携わってきた。平行して、企業 web サイトのデザイン等にも関わった。この経験を経て、現在は、経営情報学部の

メディアデザインコースにおいて、メディア表現を通じた情報発信の教育を行っている。教育において私が掲げるキーワードは<調和>と<情報発信能力>である。ここでは、キーワードに則して、それぞれの教育理念について述べたい。

一つ目は調和を重んじる人材の育成である。文化や価値観の相互理解は、現代の社会的課題の解決に資すると考えられるが、近年は利己的な風潮や経済的格差が広がる一方であり、調和と相互理解が、積極的に社会参画する人材の資質に不可欠であることは疑いない。さらに高度な情報化の最中にある現代では、無意識に情報が選別され、このことで自己の価値観に固執しようとする雰囲気が強まっていると感じられる。メディア表現に関わる人材は、先んじて、このことに自覚的でなければならない。

もう一つの理念は、社会を洞察しながら表現能力を活かすことができる人材の育成である。社会制度や科学技術の変革は立て続けに訪れようとしているが、変化する社会の中で自らのメディア表現能力を活かすには、常に社会に目を向け、自身の責任と立場を説明できなければいけない。そのためには生涯にわたって学んでいこうとする態度が必要である。

以上述べた理念は、本学の経営情報学部のディプロマ・ポリシーが標榜する人材の姿と重なる。詮ずるところ、メディアデザイン教育における私の理念は、高度な情報発信スキルを有しながらも、メディア表現に対する謙虚さを持ち、且つそれを柔軟に社会に還元できる人材を輩出することである。

### **3. 教育の方法**

#### 3-1) 教育の方針

本学ビジネスデザイン学科では、2年次以降、学生のキャリアデザインに合わせた科目を5コースの専門分野から横断的に履修できるように科目編成されている。したがって、メディア表現系の科目においても、学生の多様な志向性を念頭に授業を展開する必要がある。このような前提において、2章で述べた教育理念を実現するための方針を述べたい。

メディアのデジタル化やICT技術の発展は、目新しくインパクトのあるメディア技術や編集技法をもたらしている。我々は一見それ自体に特別な伝達力があるように感じる。しかし「伝わる」ことの本質を担うのは、テクニックではなく相互理解である。私は、表現スキルの教育と平行して、視覚伝達を成立させる相互理解の条件や環境を考察させたい。実際、学生の興味はテクニックに偏りがちであるが、履修生には、テクニックの修得を好奇心の切り口として、さらに各自の<伝達のスペシャリティ>を自ら発見してもらいたい。

そのために、専門基礎科目の授業の導入部では、学生が楽しみながらテクニックを習得できるように工夫している。さらに展開部では、自らの表現が他者からどのように感じられるのか、他者の表現を自分のこととして、どう引き受けるのか、様々な立場からの考察と発表の反復を実施する。

発展科目では、学習成果を地域に発表できるような機会を学生とともに模索している。グループ活動により表現活動を実地で実践させ、伝わることのリアリティに触れさせるように指導している。

しかしながら、表現が苦手な学生や、自分の優れた点に気づきにくい学生もいる。学生一人ひとりと向き合い、知的好奇心を引き出すのは手間のかかることであるが、学生だれもが質の高い教育を受けられることが重要であり、知識、情熱、忍耐、あらゆるものを動員して、達成感に触れさせたい。

### 3-2) 教育の実践

ここでは、上記の方針の基づいた実際の指導例を挙げる。

- ① 専門基礎科目<情報デザイン>の前期では、スライドによるプレゼンテーションやポスターのデザインに即時に活用できるような視覚表現スキルを「伝わりやすさ」という視点から指導している。同科目の後期では、デザインにおける相互理解を考察するために、日常的なく書式>を教材として取り上げている。たとえば簡単なアンケート書式ひとつとっても、それを視覚的にレイアウトする人、記入する人、集計する人、データベースエンジニア、立案者という立場が関わるであろう。学生は、様々な立場に立って書式の条件を考察し、各々のデザインと課題を論じ、相互に評価する。
- ② 発展科目<メディアデザイン演習 E>では、地域との協働で空間表現を実践している。つくば都市交通センターが管理する公共展示スペースは、地域の文化的活性化を目的としており、本科目では、グループワークを通して、この課題に取り組んでいる。2019年度は、プロジェクト・マッピングの成果が地域のメディアでも報道され、学生が取材対応した。学生にとっては、みずからの空間表現の構築や地域との協働に対して、現場でのリアルなフィードバックを得ることができ、生きた学びとなっている。

## 4. 教育の成果 および 今後の目標

### 4-1)

筑波学院大学は、長期インターンシップ協定を授乳服メーカーのモーハウスとの間に結んだ。この協定に先立ち、モーハウスの海外向け Web サイトのデザインを本学学生が実施した。私は、これを指導した。(平成 28 年度 大学教育に関する自己点検評価書 2-3 キャリア支援「就職率向上のための戦略的支援体制の強化」)

### 4-2)

教科の教育成果の詳細は「授業改善報告書」を参照頂きたい。



イラストレーション授業風景



モーハウス海外向け Web サイトデザイン案



本学+モーハウス共同記者発表



市民に開放されたプロジェクション作品

©NEWS つくば



地域メディアの取材対応

©NEWS つくば

発展科目 2019,2020 年度

つくば都市交通センター公共展示スペースでのプロジェクション・マッピング 準備と展示の様子

## **5, 参考資料**

5-1) 授業改善報告書 (過去 3 年分のもの)

5-2) LMS : Google Classroom (メディアデザイン基礎、情報デザイン1・2、イラストレーション1・2、発展科目、ビジュアルライジング・プログラミング、ウェアラブル・コンピューティング)